

■ 株式会社ワンフェイス

愛知県春日井市で
3D造形による感動提供を目指す
クリエイティブカンパニー

■ 課題

ZPrinter®をベースにした
まったく新しい3Dプリンタ
ニーズの創出

■ 結果

- 一般のお客様に心から喜んでいただけるモノ作りができた
- マスメディアを通じて多くの方に3Dプリンタの実力や「3Dフェイス」の完成度をアピールできた

株式会社ワンフェイス

「顔to顔 つながる人to人」の企業スローガンを具現化。
ビジネスチャンスのさらなる拡大を可能にしたZPrinter® 650。

ZPrinter®を基準に始まった ニュービジネス

愛知県春日井市で、従業員3名という規模ながらZコーポレーションの最新鋭3Dプリンタ、ZPrinter®650を駆使したビジネスで、テレビ、ラジオ、新聞など、多くのマスメディアから注目を集めるワンフェイス。その業務内容は、工業向けの部品模型、金型サンプル模型の制作はもちろん、一般向けのノベルティグッズ制作から、フィギュア、オリジナルの立体お面「3Dフェイス」(特許出願中)まで、極めてユニークな顔を備えています。こうしたビジネススタイルのベースとなったのが、

代表取締役 伊藤正雄氏の経験とノウハウ。実は伊藤氏は会社設立以前、実際にZPrinter®の販売に携わっていた人物。それだけにZPrinter®に寄せられるさ多くの評価を身を以て受け止める立場にあったとのこと。この時の経験が、ZPrinter®によるニュービジネス始動の原動力になったということです。



課題

会社設立を前に、見えなかったニーズ

しかし、会社設立を前にした伊藤氏に立ちはだかったのが、いまだ見えないニーズ。「3Dプリンタがあれば、試作や模型づくりという経営の大事な部分を担う仕事は入ってくるが、毎月定期的にあるわけではない。ならば、オリジナルな製品をPRしてこちらからニーズを創って行くしかないと考えたんです」とは、伊藤氏の言葉。以後、伊藤氏はZPrinter®を念頭に、より多くのお客様のニーズを勝ち得るさまざまな試作品作りに没頭しました。



ソリューション

お年寄りからお子様まで、 どなたにもわかりやすく、魅力ある製品を

試作を続ける中で伊藤氏がつねに留意していたのが、お年寄りからお子様まで、どなたにも魅力を感じていただける製品作り。「3Dプリンタがあるからといって、その性能を誇示するだけの製品、マニアックな製品では幅広いニーズは期待できない。それよりもどなたにも魅力を感じていただける製品、お客様からこんな風に使いたいという声が聞こえてくるような製品、安価で気軽に手にできる製品作りを目指しました。その結果、たどり着いたのが立体お面「3Dフェイス」だったんです。はじめはPC上のスケッチから立体化のデータを得るつもりでしたが、この方法だとスケッチの間、お客様をお待たせすることになる。また、サプライズプレゼントにしたいという場合は使えません。そこで思いついたのが写真からデータを得る方法でした」と伊藤氏。ここに、よりリアルな造形を追求するワンフェイスの「3Dフェイス」に関する基本構想が完成したのです。



Z CORPORATION®

Case Study: 株式会社 ワンフェイス

よりリアルな顔作りを可能にしたのは、 高精細かつ高速なフルカラープリントを 実現したZPrinter®650

こうした経過から、会社の設立時点から「3Dフェイス」をメイン製品として打ち出すことを基本方針としたワンフェイス。この時のことを伊藤氏は、「3Dプリンタの候補はZPrinter®以外検討するものではありませんでした。しかも、当時リリースされたばかりのZPrinter®650はカラー、クオリティなど、どれをとっても他のプリンタとは格段に違う。いまだからいえることですが、ウチのビジネスはZPrinter®650がなかったら成立しなかったでしょうね」と語っています。その言葉どおり、従来のCMYインクにブラックインクも採用したZPrinter®650は、他に類のない24bitのフルカラー出力を提供。600×540dpiの高解像度と合わせ、肌の微妙な色合い、髪の毛の漆黒さえも忠実に再現します。また、Z方向造形スピードも28mm/時間と群を抜くハイスピードを実現。このことは伊藤氏の「数百個のノベルティが必要だが金型を作るまでではないというケースに最適。300個程度を手作業で作るとなると半年、1年という納期が必要だが、ZPrinter®650なら1カ月程度で可能です」という言葉が実証しています。



結果

BtoB、BtoCの双方で確かな評価を獲得

ZPrinter®650の導入と同時に着実な歩み続けるワンフェイス。BtoBの中でも特に部品の特性や用途を色で区別しておく必要がある工業分野では、細かな部品ごとの指定色をそのまま着色して出力できるZPrinter®650のメリットは、ABS樹脂素材を用いる3Dプリンタには真似のできない点として高い評価を獲得しています。しかし、最も印象に残ったのは、伊藤氏がやや声のトーンを落として語った次のエピソード。「ある日、小さなお子様の写真と共に、この子の「3Dフェイス」を作って欲しいというお手紙をいただきました。この時、ウチでは通常どおりの作業を経て出来上がった「3Dフェイス」を納品させていただきました。その写真の本当の意味を知ったのは、後日、お礼のお手紙をいただいた時。そこに記されていたのは、そのお子様がすでに世界なさっていたということ、「もう一度会いたかった我が子に再び会うことができた」という一文。この時はじめてZPrinter®で作るものは「感動」さえもお伝えできるということ。そして、これはきっとZPrinter®でしかできないことなんだとスタッフ一同痛感した瞬間でした」というお話でした。

未来の展望

ワンフェイスが掲げる次の時代に向けた キーワードは、「誰も3Dプリンタを使ったとは 思えないような製品」作り

現在では、造形師を抱えるフィギュアメーカーからも注文を受けているということ。このケースでは顔の部分をワンフェイスで制作し、ボディ部分をフィギュアメーカーで行っていますが、そのメーカーからも「あの顔のクオリティは出せない」という評価があるそうです。しかし、そんな好調な業績を積み重ねる中でも、伊藤氏は次のステップに向けた準備を着々と進行中。もちろん、現時点ではその詳細を明らかにすることはできないものの、ヒントとして「BtoB、BtoC共に要になるのは『動き』と『演出』。誰も3Dプリンタを使ったとは思えないような製品を計画しています」という言葉をいただきました。最後に「モニタの中の3Dと目の前にある立体はやはり違う。モニタの3Dに満足できないから、立体のニーズがあるんです。立体はモニタでは見えない部分が見えてくるし、実際に触って確かめられる。これらをいかに上手く作り上げて行くかが、これからの鍵になるでしょうね」と締めくくった伊藤氏。シックなトーンで統一されたショールームの中、ひと際目を奪うのはガラス張りのブース内でスポットライトを浴びているZコーポレーションの最新鋭3Dプリンタ、ZPrinter®650。「お客様にはここでコーヒーを飲みながら出力の様子をご覧いただくんです。筐体内の陰圧でパウダーの飛散が抑えられているから汚れも気になりません。そのガラスなんか、これまで一度も掃除する必要がないほどなんですよ」とは取材後の余談。伊藤氏の情熱とZPrinter®650のパフォーマンスが手を結べば、まだ誰も見たことのない3Dの世界が見られるのも、そう遠い未来の話ではなさそうです。



“立体はモニタでは見えない
部分が見えてくるし、
触って確かめられる。
この作り上げが、
これからの鍵になる”

株式会社ワンフェイス
代表取締役 伊藤 正雄



株式会社 ワンフェイス

愛知県春日井市神屋町1-41
www.oneface.jp/

Z Corporation

32 Second Avenue, Burlington, MA 01803 USA
Phone: +1 781 852 5005
www.zcorp.com

Z コーポレーション 日本オフィス

横浜市西区みなとみらい2-2-1 横浜ランドマークタワー30F
Phone: 045-224-3271
www.zcorp.com.jp



Z CORPORATION®